



にほん いさん まさむね はぐく だて ぶんか
日本遺産「政宗が育んだ“伊達”な文化」

たんけん
探検しよう！私たちの“伊達”な文化



日本遺産

平成 28 年度 日本遺産認定

政宗 が育んだ “伊達” な文化

宮城県

仙台市・塩竈市・多賀城市・松島町

黒漆五枚胴具足（伊達政宗所用）／仙台市博物館蔵

「伊達」な文化」魅力発信推進事業実行委員会

___ 年 ___ 組 ___ 番

名前 _____



「日本遺産」って何だろう？①



地域の魅力を「日本遺産」ストーリーに

私たちが暮らす地域には、建造物や遺跡、美術工芸品、伝統的な技や芸能、古くから続くお祭りなど、さまざまな文化財が、長い時間をかけて多くの人々の努力によって残されてきました。それらは、まわりに広がる自然環境とともに歴史的な魅力や特色になっています。

そのような「地域の歴史的な魅力や特色を通じて私たちの国の文化や伝統を語るストーリー」を、「日本遺産」として文化庁(国の機関)が認定するものです。



日本遺産の
ロゴマーク



全国に広がる「日本遺産」ストーリー

「日本遺産」ストーリーは、2015年度から2018年度までに、全国で67件認定されてきました。

仙台市・塩竈市・多賀城市・松島町にある51件の文化財から構成される日本遺産「政宗が育んだ“伊達”な文化」は、宮城県ではじめて2016年度に認定されました。



地域を元気にする力は、自分たちの手で！

「日本遺産」ストーリーを語るうえでかかせない、地域のさまざまな文化財の魅力や、日本国内だけでなく世界へも積極的に広めていくことによって、自分たちの手で、自分たちの地域を元気にしていく取り組みです。



「日本遺産」って何だろう？②

調べてみよう！もう少し、くわしく！

- 全国にはどんな「日本遺産」ストーリーがあるの？

➡ 日本遺産ポータルサイト <https://japan-heritage.bunka.go.jp/>

MEMO

- 日本遺産「政宗が育んだ“伊達”な文化」って？

➡ 「伊達」な文化」公式ホームページ <http://datebunka.jp/>

MEMO



日本遺産「政宗が育んだ“伊達”な文化」の物語②



日本遺産「政宗が育んだ“伊達”な文化」ってどんなもの？

みなさんのあいだでは、伊達政宗は、「独眼竜」という呼び方で、戦国武将のイメージが強いかもしれませんが。でも、じつは時代の最先端を行くすぐれた文化と教養をもった人物でもあったのです。とくに、「美しさ」にたいする考え方は、政宗が取り組んだ城下町づくりの中にもみることができます。



秋保の田植踊／仙台市

政宗は古くから伝わってきたよいものを大切にしながら、当時、都で栄えていた最新の桃山文化や遠く海外の文化も熱心に仙台藩へ取り入れました。政宗が築いた「“伊達”な文化」は、建造物だけでなく伝統工芸品や祭りなど、城下の人びとの暮らしのなかにも広まり、今でもいろいろな場所で目にすることができます。



キーワード

桃山文化

- * 織田信長や豊臣秀吉の時代から江戸時代のはじめにかけて栄えた文化。
- * 城・神社・寺院などにみられる豪華さと、茶の湯の世界にみられるかざり気がなく、落ち着いた感じをあわせもっている。
- * 南蛮貿易によって外国の文化の影響も受けている。



豪華さ：大崎八幡宮／仙台市



落ち着いた感じ：瑞巖寺本堂／松島町



「伊達」な文化^{だて}が息づく^い私たちのまち^{わたし}①

■ 仙台の“伊達”な文化

伊達政宗が仙台城を築き、藩の中心としました。政宗は、この地が未来に向かって栄えることを願い、永遠^{えいえん}を意味する「千代」^{せんたい}にちなんで「仙台」^{せんたい}と名づけました。また政宗によって神社や寺院も建てられ、当時の京や大坂にならぶ桃山文化の世界をつくり出しました。



仙台城跡



■ 多賀城の“伊達”な文化

奈良・平安の時代に、東北地方の政治や軍事の中心として栄えました。いっぽう、古くから都の人びとにも和歌によまれた「歌枕」^{うたまくら}とよばれる美しい名所が今でも多く残されています。政宗は和歌への理解も深く、仙台藩はこれらの歌枕の地を大切に守ってきました。



壺碑(つぼの石ぶみ)



「伊達」な文化^{だて}が息づく^い私たちのまち^{わたし}②

■ 塩竈の“伊達”な文化

“しおがまさま”の名前で親しまれている^{しおがまじんじや}塩竈神社があります。奈良・平安の時代から東北地方全体の守り神として、多くの人びとの祈りや願いのよりどころとなってきました。仙台藩も政宗の時代から保護を続け、春の帆手祭^{ほてまつり}と花祭^{はなまつり}も藩の^{ゆる}許しをえて始まりました。



塩竈神社



■ 松島の“伊達”な文化

古くから多くの人びとがおとずれた^{しんこう}信仰と^{けしき}景色の美しい土地です。政宗は、この地にあった長い歴史をもつ有名な寺院を、瑞巖寺^{ずいがんじ}としてよみがえらしました。また、『おくのほそ道』を書いた^{まつお}松尾芭蕉は、松島の海にうかぶ月^{ぼしよ}にあこがれて旅に出たといわれています。



月の松島